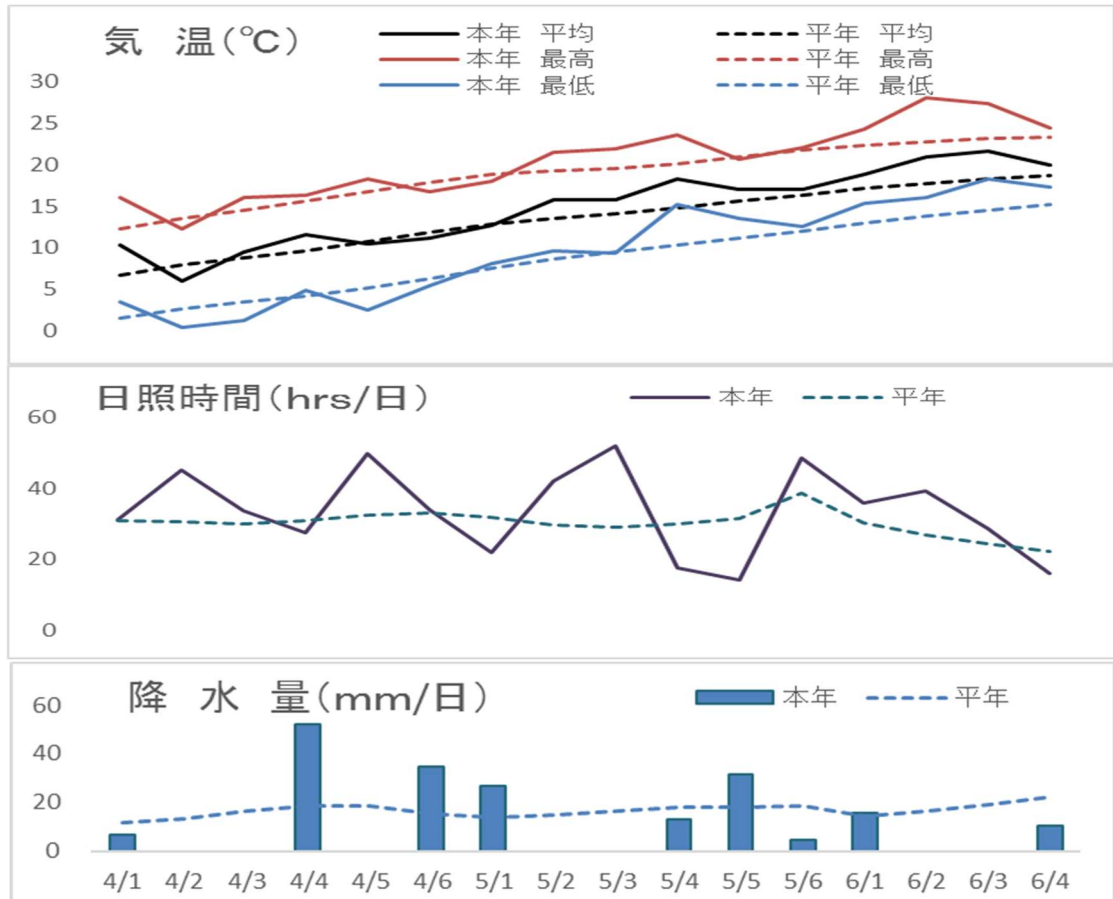


～6月は高温傾向で推移し、生育は概ね順調～

1 令和3年の気象(古川アメダス)



〔1か月予報:気温, 降水量, 日照時間の確率(%) 東北地方〕 6月19日～7月18日

・平年と同様に曇りや雨の日が多い。向こう1か月の気温は、高い確率40%、並の確率30%、低い確率30%。降水量は、多い確率40%、並の確率30%、少ない確率30%。日照時間は、多い確率30%、並の確率30%、少ない確率40%。

2 生育状況(6月21日) [宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査]

(1) 宮城県古川農業試験場調べ [作況試験 ひとめぼれ]

- ・草丈は、39.4cmで平年比119%である。
- ・茎数は、m<sup>2</sup>当たり566本で平年比119%となっており、6月10日調査時点から倍増している。
- ・葉数は、8.7枚で平年より0.9枚多く、生育ステージは概ね数日進んでいると思われる。
- ・葉色(GM値)は45.5で、概ね平年並みである。

移植日	草 丈		茎 数		葉 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	平年比 (%)	本 年 (枚)	平年比 (枚)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
5月10日	39.4	119	566	119	8.7	0.9	45.5	1.4

## (2) 地帯区分別【参考】

- ・草丈・茎数とも平年を上回っており、葉色（GM値）は概ね平年並みである。
- ・晩期栽培や直播栽培を除き、ほとんどの水田では概ね有効茎数は確保されたものと思われる。

県農業改良普及センター調査〔生育調査ほ ひとめぼれ・ササニシキ〕

地帯区分別	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
北部平坦	40.5	116	474	111	43.2	1.1
南部平坦	46.8	111	574	110	44.1	0.1
仙台湾沿岸	38.8	111	406	110	41.7	0.4
西部丘陵	39.1	113	427	128	41.9	▲ 0.8
三陸沿岸	40.3	130	518	120	40.3	▲ 0.5

## 3 今後の管理

### (1) 水管理

- ・有効茎数（400～500本/m<sup>2</sup>）を確保した水田では、根の活力向上や土壌の地耐力向上のため、中干しを実施する。
- ・中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、足跡がつく程度の固さとする。排水不良田や排水に時間がかかる大区画水田では、溝切りを実施すると排水が容易になる。
- ・中干しの終了後に急激に湛水状態にすると、土壌の還元が急激に進んで酸素不足となり根を痛めやすいので、中干しの終了直後は走り水程度として徐々に湛水状態に戻す。
- ・6月は気温が高めに推移しており、稲わらなどの未熟有機物が施用されているほ場では、平年に比べてガスの発生が多いようである。特に、まとまった降水等により長期間にわたって湛水状態が続いている水田では、時々落水してガス抜きを実施する。
- ・晩期栽培や直播栽培など、目標茎数に達していない水田では、引き続き水深2～3cmの浅水管理を行い分けつを促進する。

### (2) 補植用残苗の処分といもち病の予防

- ・6月18日の巡回時点でも、水田に残苗が放置されているところが見られる。いもち病の発生源になるので、速やかに処分する。
- ・葉いもちは、収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となる。水田をよく観察し、いもち病の早期発見・早期防除に努める。
- ・直播栽培など、いもち病予防に箱処理剤を使っていない場合は、確実に水面施用剤を散布する。

### (3) 斑点米カメムシ対策

- ・畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となる。
- ・計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑制する。
- ・水田内にイヌホタルイ、ノビエ等が多く残草していると、斑点米の原因となる「アカスジカスミカメ」が増殖して被害が助長される傾向にある。残草が目立つ場合は、後期除草剤等で防除する。